

vol.

111

2023

3/24 発行



いちのへ社協だより

ゆいっこ



CONTENTS

令和4年度各種会費及び募金実績報告	2～3	社協からのお知らせ	7
できごとフラッシュ	4～5	Topics	8
つながる地域つなぐてとて	6		

題号"ゆいっこ"は、古くは若者たちによる共同農作業という素朴な集団の呼称として使われていましたが、この互助精神が福祉の精神そのものと思い、社会福祉協議会広報の題名にしました。



日本赤十字社 活動資金増強運動

令和4年度も例年と同様に、5月を全国一斉日本赤十字社活動資金増強運動月間とし、活動資金の募集活動が展開されました。

この活動資金は、全額が日本赤十字社本社へ送金され、各種活動（災害救護活動・ボランティア支援・赤十字講習会・国際救援活動等）に充当されています。一戸町分区分においても、小中学生が行う青少年赤十字活動への助成や献血活動の実施、災害時救護物資の備蓄等に役立てられています。



一戸町役場での献血の様子。

総額 2,401,700円 (前年度比 △26,100円)

一般活動資金 2,343,000円	法人活動資金 56,000円	寄付金 2,700円
----------------------	-------------------	---------------

一般世帯からの500円以上2,000円未満の会費
町内企業からの2,000円以上の会費
500円未満の寄付金



赤い羽根 共同募金運動

赤い羽根共同募金運動は、「自分の町を良くするしくみ」を作ることを目指すとして、毎年10月に全国一斉にスタートする募金運動です。誰もが安心して暮らせる地域を作るため、乳幼児と子育て世代をサポートするチャイルドシート貸出事業や、地域住民同士の支え合いのためのボランティア活動保険助成事業などに活用されます。



校内募金活動にご協力頂いた小鳥谷小学校の皆さん。

総額 2,946,716円 (前年度比 △204,565円)

戸別募金 2,145,645円	法人募金 353,000円	大口募金 336,000円	職域募金 55,799円	学校募金 46,092円	その他 窓口募金等 10,180円
--------------------	------------------	------------------	-----------------	-----------------	-------------------------

一般世帯からの募金
例年2,000円以上の納入実績のある企業、小売店からの募金
例年2,000円以上の納入実績のある個人からの募金
町内の企業等による職場内募金活動
町内小中学校の児童生徒による校内募金活動

報告 令和4年度 各種会費及び募金実績

令和4年度において、本会が事務局となり会費や募金の募集活動を行った4つの事業について、次のとおり報告いたします。



一戸町社会福祉協議会 会費募集事業

本会の会費募集は、例年8月頃に実施しております。今年度も町内外より、地域住民、法人、老人クラブなどの団体の皆さまのご協力を頂くことができました。

皆さまから納入いただいた会費は、本会の地域福祉事業（ふれあい・いきいきサロン事業助成、通院時外出支援サービス事業、長寿祝品贈呈事業、福祉教育の推進に関する事業等）の財源として活用させていただきます。



一戸南小学校でのハンディキャップ体験の様子。

総額 3,440,400円 (前年度比 △180,800円)

世帯会費 2,938,400円	団体会費 244,000円	特別会費 176,000円	賛助会費 82,000円
--------------------	------------------	------------------	-----------------

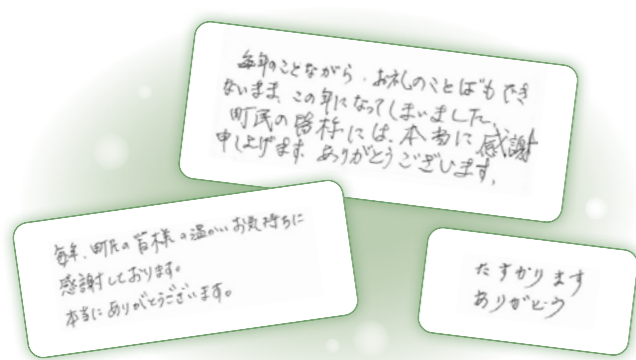
一般世帯からの800円以上の会費
老人クラブ、民生委員児童委員協議会等の団体からの会費
特別会員になっている世帯、法人からの一口2,000円の会費
町外の団体、個人からの会費



歳末たすけあい 募金運動

歳末たすけあい募金運動は、支援を必要とする方々が安心して新しい年を迎えられるよう、毎年12月に行われる募金運動です。地域の皆さまから寄せられた義援金のほとんどが、新年をあたためたい気持ちで迎えるための費用として対象世帯へ配分されました。また義援金の一部は、次年度の地域福祉活動資金に役立てられます。

歳末たすけあい義援金を受け取った方から
町民の皆さまへメッセージ



配分金総額 3,038,347円 (前年度比 △37,582円)

在宅高齢者世帯 2,181,000円	生活困窮世帯 312,000円	配分事務費 126,000円	母子・父子世帯 80,000円	福祉団体等配分 60,000円	地域福祉活動事務費 254,347円
-----------------------	--------------------	-------------------	--------------------	--------------------	-----------------------

障がい児・者世帯 25,000円

※義援金の使い道を示しています。

奥中山の冬を満喫 みどりの森こども園

みどりの森こども園(園長大和田留吏子)では、今年も晴れ間を見つけては、友達や先生と一緒に雪だるまづくりや雪合戦、雪山からのおしり滑りなど、元気いっぱいに雪遊びを楽しみました。

0歳児や1歳児もそりに乗り、奥中山の冬を満喫しました。外に出られないときは、空き箱で作った電車ごっこで遊んだり、おしゃべりをしたりと、いつでも元気いっぱいの子もたちでした。



なかよく電車ごっこ。中でもお外でも元気に遊んでいます。

今年の冬も元気いっぱい 摺糠キッズ 摺糠児童館雪あそび

摺糠児童館(館長松館聖子)では、この冬も施設の近くの敷地で子どもたちが雪遊びを楽しみました。

町内有数の豪雪地帯に住む子どもたちにとって、あたり一面が遊び場です。たくましく登る姿はまるで登山家のように、今年の冬も存分に遊びつくしていました。



雪遊びを楽しむ子どもたち。寒さに負けないパワフルさです。

オレンジカフェさくらの会inまちなか交流館 認知症の人もそうでない人も“共に”

オレンジカフェさくらの会(会長柏葉英美)が関係機関と協働で実施する認知症カフェが、2月28日、まちなか交流館ぶらっと・ほっとで開催されました。

この取り組みは、毎月1回コミュニティセンターで開催している認知症カフェを、幅広くたくさんの人知ってもらおうと地域を巡回して開催するものです。

今年度最後の巡回となったこの日は12名が参加し、ひなまつりにちなんだひな人形作りや参加者同士の交流を楽しみました。



誰もが気軽に参加でき、くつろげる場所の提供を目指すオレンジカフェさくらの会。

ふれあい・いきいきサロン等活動者交流研修会 つながり合ってより良い地域づくりを

本会では町地域包括支援センターの協力のもと、地域福祉活動を実施する団体を対象として、2月21日、交流研修会を開催しました。

当日は18名が参加し、デジタル機器を活用した地域福祉活動の可能性について、研修やグループワークを通じて他団体との情報交換を行いました。

参加者同士の活動状況の共有が、自身の活動の励みや刺激になったとの感想が多く寄せられました。



お互いの活動の情報交換を行うグループワーク。



1



2

奥中スノーバスターズ大活躍 豪雪地帯の頼れる味方

奥中山中学校(校長永本一志)の1・2年生によるスノーバスターズが、1月5日、地区内の高齢者宅8世帯分の除雪活動を行いました。30名ほどの生徒が参加し、4つのグループに分かれて活動しました。

当日は長靴の足元がしっかり埋まるくらいの雪が積もり、特に除雪が難しい屋根下は、小高い山の様でしたが、そんな雪をものともせず、スノーバスターズの皆さんはどんどん雪かきを進めていきました。

依頼した高齢者の方は、時折中学生との会話を楽しみながら、「たくさんやって頂いて本当にありがたい。」と何度も感謝していました。奥中山中学校の生徒・先生方の皆さんお疲れ様でした!

- 1 雪を運びだすのも一苦労。大きなそりに乗せて運んでいます。
- 2 雪かきの後の一枚。さわやかな中学生の笑顔が素敵です!



一戸町子ども会・子ども会育成会上級生研修会 ワークショップ 防災博士になろう!

一戸町子ども会育成会連絡協議会(会長澤口大輔)と一戸町教育委員会は、2月12日、町内の小学校3年生以上の児童等を対象とした研修会を開催しました。

この研修会は、例年本会の青少年健全育成事業助成金を活用して実施されるものです。

講師を務めた澤村隆太氏(一戸町出身)は、東日本大震災で被災し災害ボランティアを行った自身の経験を基にクイズや実践を交えたワークショップを展開。参加した22名は、防災に関する知識を深めました。



災害時の応急処置について実践を交えた講義を行う澤村さん。(右)

高齢者作品展覧会開催 竹細工や木工、 福祉マルシェに心弾む一日

2月3日(金)、一戸町老人クラブ連合会(会長久保実孝)は、高齢者作品展覧会を開催しました。高齢者施設の作品展覧はもちろん、竹細工や木工の展示・販売が行われ、多くの方が足を運びました。

本会では、障がい者福祉事業所の作品販売ブースを福祉マルシェとして設け、町内5事業所から寄せられた加工食品等を販売しました。合計44,415円を売り上げ、その内35,306円は各事業所の収益、5,054円は赤い羽根共同募金への寄付となりました。



会場となった町文化センター軽運動場の当日の様子。

5月1日より日本赤十字社活動資金
増強運動がスタートします

皆様からの募金は、自然災害等発生への災害救護支援活動を始め、様々な人道的活動の基盤整備のために大切に使用させていただきます。

町民の皆さまのご協力、よろしくお祈りします。

運動期間：令和5年5月1日～5月31日

会費の目安：一般会員1世帯当たり600円

特別会員1世帯当たり2,000円

納入方法：期間中各地区行政連絡員または班長が世帯を訪問し活動資金の募集を行います。

問い合わせ先：日本赤十字社一戸町分区

(一戸町社会福祉協議会内 TEL 0195-33-3385)

令和5年度各種「社協の保険」の
受付を開始します

本会では、ボランティアやサロン活動、福祉サービスなどの活動に対してのリスクに備えるための各種「社協の保険」の申し込み受付を開始しております。

保険の種類：ボランティア活動保険

ボランティア行事用保険

ふれあいサロン・社協行事傷害補償

福祉サービス総合補償

問い合わせ先：一戸町社会福祉協議会

(TEL 0195-33-3385)

ジョイス一戸店
お買い物サポーターを利用しませんか？

令和5年度もジョイス一戸店でのお買い物サポーターを引き続き実施します。

品物選びや支払い、荷物運び等みなさんのお買い物を「お買い物サポーター」が必要に応じてお手伝いします。どなたでもお気軽にご利用ください。

日時：毎月第3木曜日 午後1時～午後3時

(4/20、5/18、6/15、7/20、8/17、9/21、10/19、11/16、12/21、1/18、2/15、3/21)

場所：ジョイス一戸店

内容：①品物選びや支払い、荷物運び等のお買い物サポート

②ゆっくりお会計できる「おもいやり優先レジ」の設置

③住民同士の交流を図るくつろぎスペースの設置

申し込み：問い合わせ先へ電話で申込

(事前予約なしでの参加も可能)

問い合わせ先：一戸町社会福祉協議会

(TEL 0195-33-3385)



令和5年度各種地域福祉活動
助成金・補助金申請受付について

▶本会では、「ふれあい・いきいきサロン助成金」交付申請を受付しています。

対象：町内で定期的に福祉活動を行う団体

申請方法：問い合わせ先に電話または来庁後、書類申請

※令和4年度実施団体には書類を郵送配付

助成金額：一回一人当たり100円

※例：会員10名の団体が月1回(年間12回)活動した

場合、年間助成額は、

10名×12回×100円=12,000円(上限なし)

問い合わせ先：一戸町社会福祉協議会

(TEL 0195-33-3385)

▶一戸町では、「地域保健福祉活動支援事業補助金」交付申請を受付しています。

対象：町内で高齢者の介護予防、閉じこもり防止活動を行う団体

申請方法：問い合わせ先に電話または来庁後書類申請

助成金額：補助対象経費の10分の8以内で上限30,000円

問い合わせ先：一戸町地域包括支援センター

(TEL 0195-32-3700)

ゆいっこ voice



「広報ゆいっこ編集係」にお寄せいただいた皆さんの声をご紹介します。(町外の方からもお寄せいただきました!)

つなぐて・と・てを読み、(中略)被災農家に希望の光を同感です。ボランティア団体の皆さんありがとうございます。自分が助けられた気持ちです。(60代 女性)

▶これからも活動の様子を分かりやすく伝えられるよう努めていきます。

今の時代はなんでも難しい機械ばかりですからお買い物サポーターは本当に助かると感じます。(70代 女性)

▶今後も継続的に進めていきます。

読者プレゼントが Google フォームならより良いですし、アンケートも積極的に行ってください。協力いたします!(40歳 女性)

▶ Google フォームの活用を検討いたします。今後ともぜひご協力よろしくお願いします。

災ボラの大変な被害、そして修復作業が写真や文章からとても伝わりました。めおと長寿祝いのページが気に入りました。(20代 女性)

▶一戸の現状を様々な形でお届けできる様に、取材したいと思います。めおと写真もお楽しみに!



食事の準備を手伝う子どもたちとそれをサポートする高校生や大人。

食後、遊びに夢中になる子どもたち。

つながる地域
つなぐて・と・て
part 13

みんな食堂 - カフェいちのへ日和 -

かつて一戸では当たり前だった活気ある地域づくり。誰もが自然に手を差し伸べ合い、助け合える地域づくり。そんな光景を再び一戸に取り戻したい…。社会福祉協議会は、住民が手と手を取り合い支え合う地域づくりの実現を目指しています。このページでは、町内の住民主体の活動によって地域が元気になり「つながり」が生まれていく様子をシリーズで紹介していきます。

みんな食堂って
こんなところ

日曜日の午前11時、「いらっしやいませ!何人分ですか?」可愛いエプロンを身につけた小さな店員さんに、それを見守る高校生ボランティアや地域の大人たち。賑やかにみんな食堂がオープンしました。

「一緒に食べよう」と友達同士誘い合って食事する子どもたち、「久しぶり!」と世間話を始める大人たち、「いつも楽しみにしているよ」と立ち寄り高齢者など、おいしい食事を楽しみに様々な世代の人が集まって来ます。

「みんな食堂」を運営するのは、カフェいちのへ日和店主荒内雅美さん。みんなと食事することを楽しんでほしい、地域住民にとって家でも学校でも職場でもない心地良い居場所を作りたいといった思いから、昨年9月この取り組みをスタートさせました。



毎月の開催を楽しみに訪れる高齢者も、多世代が集うみんな食堂。

たもの。調理、当日の受付や配膳、片づけは、子どもから大人までボランティアスタッフが手伝います。「一人でも多くの方にみんな食堂に関わってもらって、少しずつ地域のみなさんに認知されるよう継続していきたい」と店主荒内さん。

みんなと一緒に
食事をすることの、その先

みんな食堂は、近年、メディアなどで見かける機会の増えたことも食堂に類似したものといえるでしょう。このような取り組みは、しばしば「困難を抱える子どもへの支援」と対象が限定されて捉えられがちですが、多世代が集い交流できる場、地域住民同士がつながり合える場など重要な役割

みんな食堂

日時：毎月第3日曜日

(変更の場合あり)

11:00~14:00

場所：カフェいちのへ日和

(IGR 一戸駅構内)

費用：中学生以下無料、大人300円

お問合せ：カフェいちのへ日和

(アラウチ・090-7798-7995)

※食材を提供してくれる方、手伝ってくれる方も募集中。



店主 荒内雅美さん

割を担っているのです。まずは、みんなで食事を楽しむことから。みんなで食事をすることを通じて、食材を提供してくれる人、調理や配膳など運営を手伝ってくれる人や食べに来てくれる人などたくさんの人に関わり合い生まれる人と人のつながり。そのことがいつか誰かにとって居心地の良い場所になってほしいと店主荒内さんは思いを強くします。

少子高齢化や家族形態の多様化に加え、コロナ禍によって地域のつながりが希薄な今、みんな食堂を必要としているのは子どもだけでなく地域社会全体ではないでしょうか。

各種相談日程表

	無料法律相談	多重債務相談	ふれあい相談
開催日	4月11日(火)、4月25日(火)	4月18日(火)	月曜日～金曜日 (土日祝祭日・年末年始休み)
	5月9日(火)、5月23日(火)	5月16日(火)	
	6月13日(火)、6月27日(火)	6月20日(火)	
	7月11日(火)、7月25日(火)	7月18日(火)	
時間	10:00～15:00	10:00～15:00	8:30～17:15
場所	二戸消費生活センター (二戸合同庁舎内) TEL 0195-23-5800※要予約		一戸町社会福祉協議会 (一戸町総合保健福祉センター内) TEL 0195-33-3385

表紙の紹介



摺糠児童館雪遊びの1コマ。真っ白い雪をよく見ると小さな可愛い足跡がついています。

摺糠児童館は、惜しまれながらも今年度で閉館となります。この思い出を胸に、新しい場所でも子どもたちが羽ばたけますように。(関連4-5ページ)

寄付御礼



(令和5年1月～令和5年3月1日取扱分)

社会福祉協議会への寄付

◆故・鈴木 勝也様(ご香典返し) 金一封也

生前のご本人の意思により一戸町社会福祉協議会活動発展のため、香典返しとしてご遺族様より頂きました。

一戸町社会福祉基金への寄付

◆一戸町文化協会(会長 小野寺善一様)
金 50,000円也

頂きましたご寄付は、地域福祉事業の推進のため使用させていただきます。ありがとうございました。



災害義援金募集のお知らせ



社会福祉協議会では、被災された方々を支援するための義援金を次の通り受付しております。頂いた義援金は岩手県共同募金や日本赤十字社岩手県支部を通じて全額被災地の方々へ届けられます。皆さまのご協力をお願いいたします。

・2023年トルコ・シリア地震救援金
(受付期間：令和5年5月31日まで)

その他、各種国外義援金、救援金については一戸町社会福祉協議会(TEL 0195-33-3385)までお問い合わせください。

読者プレゼント

本誌への感想や当協議会への意見など、アンケートに答えていただいた方の中から抽選で3名の方に一戸町の特産品(1,000円相当)をプレゼントします。

応募を希望される方は、①住所②氏名③年齢④電話番号⑤本誌への感想や当協議会に対する意見などを明記の上、はがきまたはメールにて編集係までお送りください。発表は、発送をもって替えさせていただきます。

応募方法

▶はがき

〒028-5312 一戸町一戸字砂森93-2
一戸町社会福祉協議会「広報ゆいっこ編集係」

▶メール

ichinohe-shakyo@themis.ocn.ne.jp

編集後記

だんだんと日が長くなり、暖かい日差しが増えてきたようです。気づけばもう3月、カレンダーをめくるたびに時の流れの早さを実感しています。

振り返ってみると、一戸に引っ越してきてちょうど一年。広報などを通じて皆さんと関わる機会が増え、たくさん一戸を学んだ毎日でした。今年度は新型コロナウイルスにより様子を伺っていた事業やイベントが、少しずつ元の形に戻りつつあった場面が多い様に思います。来年度はさらにイベントなども増え、つながりも広がる1年になるといいなあ、と心から願っています。間もなくはじまる新年度が、皆さんにとってもすてきな一年になりますように。一年間ゆいっこをご覧いただきありがとうございました。(高橋)

社会福祉法人 一戸町社会福祉協議会

〒028-5312
一戸町一戸字砂森93-2
(一戸町総合保健福祉センター内)
TEL 0195-33-3385
FAX 0195-33-2737
ホームページ
<https://ichinohe-shakyo.jp/>

